No.11
2017
2月15日号

高崎市PTA連合会広報紙
たかさき倶楽部

Parent
Teacher
Association

巻頭特別対談…P1

市教育長×市P連会長
～全ては子どもたちのために

市PTA連合会研究大会を開催しました……P4
各校の「特色あるPTAセミナー」を紹介……P5
日本PTA関東ブロック研究大会を高崎で開催‥P7

すべては子どもたちのために

特別対談～教育長に聞く

市教育長×市P連会長

対談予定時間の１時間を超え、熱心に意見を交わす清水会長と飯野教育長

市PTA連合会は、子どもたちの「学力アップ」や「いじめ防止」に向けた市の取り組み、保護者としての子どもたちへの関わり方、これから求められるPTAの役割などについて、清水久美会長と飯野眞幸教育長による対談を企画しました。今回号では、子どもたちに対する飯野教育長の想いを中心に、その様子を紹介します。

子どもたちの学力アップ 地域全体で応援

清水　今回の対談は、市の取り組みや、私たち保護者の家庭での役割などを教育長にお伺いしながら、その考え方を各校のＰＴＡ会員の皆さんに知ってもらおうと企画しました。まず、市の学力アップに向けた取り組みについてお聞かせください。

飯野　ずっと県内の高校や大学で仕事をしてきて、高崎市の子どもたちが非常に控えめであると感じていたんですよね。高校の三者面談で「もう少し頑張ればこういう可能性が広がるよ」と助言しても、保護者の方が「いいんです。そんなに無理させなくて」だったり、大学に試験で突破できる学力があっても、推薦の話があるとそっちへ流れたりしちゃう。「自分で前に進もう」「もっといい点とってやろう」といった子どもたちの自己表現が少ないんですね。それがもっと身に付けば学力が伸びると思いました。ただ、それは学校だけではなく、地域全体がそうした雰囲気にならないと難しいんですね。

清水　地域全体を巻き込むということですね？

飯野　はい。今回目玉の「学力アップ大作戦」は、地域の皆さんが放課後や土曜日に子どもたちの勉強を見てくれています。中学生対象には「休日学習ステーション」。平日、部活動などでなかなか勉強する時間のない子どもたちを対象にしています。

清水　効果は出てきているのでしょうか？

飯野　はい。毎年、国が行う全国学力状況調査の結果が、年々よくなってきています。地域全体で学校を応援しようという雰囲気が、子どもたちにも伝わってきているからではないでしょうか。

清水　私も中学校の数学をお手伝いしていますが、地域からたくさんの方が関わってくれていますよ。子どもたちをほめてあげると、すごくうれしそうな顔をしてくれるんです。それでやる気を出してくれたり、勉強するきっかけになったりしてくれたらうれしいですね。

飯野　私はこの取り組みで、算数と数学に着目しているんですよ。高校では、文系と理系に分かれます。そのとき基準になるのが「数学ができるかできないか、好きか嫌いか」ということなんです。数学が苦手な子は、小学校のときから嫌いになってしまっているんですよね。だから、なんとしても算数と数学を小中学校で嫌いにさせないこと。自分の将来や未来が変わっていく可能性がありますから。

清水　一度つまずいてしまうと、どうしても苦手意識を持って、嫌いになってしまうこともありますよね。うちの子どもたちも数学が苦手で（笑）。

いいの　まさき
飯野　眞幸教育長

高崎女子高校長を退職後、県内の大学講師などを歴任し、平成23年５月に市教育長に就任。いじめ根絶を目指した「いじめ防止子ども会議」の設置や地域と連携した「学力アップ大作戦」などに取り組む。城山町在住。

飯野　もう一つは英語なんです。数学と英語は苦手意識が非常に前面に出る教科なんですよ。今回、ＡＬＴ（外国語指導助手）を全ての小中学校に配置する方針を打ち出しました。英語に初めて触れる子どもたちに、ネイティブスピーカーがそばにいてくれる。ものすごくプラスになると考えています。

清水　高崎市の子どもたちは、恵まれた環境におかれているということですね。

生徒自身が立ち上がり「いじめゼロ」を目指す

清水　教育長はいじめ防止に向けて、長年先頭に立って取り組まれていますよね。

飯野　かれこれ30年以上、いじめ問題に関わってきました。高校の担任時代の実体験が原点にあります。それから、私は専門が法律ということもあり、いじめに関する全国の裁判の判決を集めています。裁判になるのは、大体いじめで自殺してしまった事件なんですね。判決文を読むと、これは大人が救えた事件だったのではないかというのが大半なんです。大人がしっかり対応していれば、十何歳かで命を絶たなくて済んだはずなんです。私のベースにあるのは、いじめが原因で子どもたちの命が失われることが絶対にないようにすることなんです。

清水　新聞で見たのですが、いじめの質も時代とともに変わってきているようですね。

飯野　私は、イギリスの教育をずっと研究して何回か現地に行きましたが、日本のいじめと中味が全然違う。今の日本のいじめの特徴は非常に陰湿。イギリスでは、よってたかっていじめるというのがないんですね。日本の場合は取り巻きを作って何人かでいじめる。先進国の中でも珍しいのです。

清水　取り巻きを作る？

飯野　いじめる子には取り巻きがいて、さらにその周りに傍観者、さらに無関心層がいます。いじめをなくすためには、この取り巻きと傍観者をなくしていくこと。それには大人だけでなく、子どもたち自身が立ち上がらないと駄目なんです。「いじめゼロ」に向けて、子どもたちの自発的な気持ちをいかに高めていけるかがポイントだと思っています。

教員に求められる資質 本当の厳しさとは？

清水　高校の先生だったときはどんな先生でしたか？

飯野　新学期に担任が当たったか、はずれたかという話が出ますよね。私なんかもう「あぁ～はずれ」っていうすごい声が起こったものです。

清水　飯野先生が担任になるとはずれなんですか？

飯野　はい、はずれです(笑)。私は妥協しなかったから、いわゆる怖い先生に思われていたんでしょうね。ただ、そういう子たちが最後には、涙を流して「先生のクラスでよかった」って言ってくれます。やっぱりその期間の実践の中味なんだろうと思いますよね。

清水　怖い先生とは意外でした。家庭でも怖い父親だったのですか？

飯野　家庭では優しいですよ（笑）。私ね、子どもができたときに「先生優しくなったね」と教え子たちに言われたんです。授業中の居眠りなんか許さない厳しい教師でしたけど、表情が優しくなったようですね。親になってみて、子どもがよりかわいくなるというものでしょうか。子どもたちが自分を育ててくれたという面もあるのでしょうね。

清水　私もそれを感じます。5人の子育てをとおして自分自身が成長させてもらっているなって。今の先生方にも厳しさが必要だと思いますか？

飯野　言葉の厳しさや力でねじ伏せる厳しさじゃない「厳しさ」はもっとあっていいと思いますよ。妥協しないという点ですよね。やっぱり、生徒と先生がお友だち感覚になってしまっては駄目。一番気になってるのは「教員の常識は世間の非常識」ということです。例えば体罰の問題。教員が自分の子どもに鼻血が出るような体罰を加えることは考えにくいですよね。それをどうして他人の子にできるのだろうかって思います。また、部活動では顧問が生徒に叱咤激励することはあっても、罵声を浴びせる指導って一番嫌いなんですよね。

清水　私も保護者として応援に行ったとき、あれを聞くのはちょっと…。

飯野　それは本当の厳しさじゃないと思うんですよ。私も吹奏楽部の顧問をずっとしていましたが、生徒が分からないところは何度も何度も教えてあげる。それで子どもたちは付いてきます。本当の指導力を持った教師は、罵声を浴びせなくても子どもたちを動かさなければならないんです。

清水　久美会長

高崎市立の小・中・特別支援学校84校のPTAで組織される市PTA連合会会長。５人の子を持つ母として、仕事と子育てを両立しながら、子どもたちの成長を見守ってきた。長野郷中PTA会長。

子どもたちの学力アップを地域で応援

清水　教育長は、学校を頻繁に訪問していると聞いていますが本当ですか？

飯野　本当ですよ。私は、市内全ての学校に年1回は行こうと思っています。現場に行くと、先生方が工夫して頑張っているのがよく分かるんですね。訪問するときは、予告なしに行っています。だって、教育長が来るってなったら、気を遣わせちゃうじゃないですか。今日も予告をしないで2校訪問してきましたよ。

清水　でも、その方が普段の学校の様子が見られるっていうことですよね。

飯野　そうなんです。「明日行くよ」って訪問したときの姿って、もしかすると本当の姿じゃないかもしれない。もう6年近く教育長をしていますが、最初からこのスタンスです。この対談が終わった後も、もう1校訪問します(笑)。

教育長から見た最近の保護者事情

清水　共働き世帯が本当に増えて、保護者自身も時間に追われた生活をしているとすごく感じています。

飯野　家庭の教育力が低下したという指摘はありますが、皆さん懸命に子育てをされていると思っています。ただ、その中で、子どもたちとじっくり向き合う時間や心のゆとりが少なくなっているような印象を受けます。忙しいとは思いますが、子どもさんの様子を細かく見守る中で、気がかりなことがあれば、じっくり子どもさんの話を聴いてあげてほしいと思っています。そして、それと同時に学校にも相談してほしいと思っています。保護者と学校が固い信頼関係で結ばれてこそ、子どもさんは大きく成長できるのではないかと思っています。

清水　自分では「子どものことをよく分かっている、子どもの話をよく聞いている」と思っていても、子どもの目線に立って、気持ちを読みとってあげないといけませんね。

飯野　時代の変化で保護者が変わるのは仕方がない話ですが、やはり子どもを中心に考えてもらいたいですね。3年前、いじめ防止対策推進法ができました。その中には「保護者はいじめをするような子どもに育てない」という趣旨の規定が入ったんですよ。今までの悲惨ないじめの事件を見ていても、親が子どもをしっかりしつけておかなかったことがずいぶん指摘されていますよね。そこを改めて振り返ってもらいたいですね。

ＰＴＡの現状と今後も求められる役割

清水　保護者がとても忙しくなり、ＰＴＡには関われない、入りたくないという風潮になってきています。

飯野　全国では、ＰＴＡの存続自体が難しいところも出てきているようですね。高崎では、市Ｐ連を中心にしっかり取り組んでもらっていると感謝していますが、やはり学校現場では、なかなか役員のなり手がいないという声も聞いていますね。

清水　「ＰＴＡは大変」「まして本部なんて」という先入観があるのではないでしょうか。でも、今は仕事をされている方がほとんどです。ＰＴＡ活動もそれを前提に業務を分担していて、そこまで負担にならないようになってきたと思います。学校に行く機会が増えて、学校の様子もよく分かりますし。何より、ＰＴＡ活動をとおして自分自身の成長にもつながりますから。

飯野　とてもありがたいですね。学校側も、ＰＴＡ活動の関わり方をもうちょっと整理してあげて、楽な気持ちで役員を引き受けてもらえるような努力が必要だと感じます。

いじめ防止に向け自ら考える生徒たち

清水　学力アップ大作戦のように地域の皆さんにも関わってもらって、地域全体で子どもたちを育てていこうという感じになっています。その橋渡し役がやっぱりＰＴＡ。

飯野　そうですよね。そういう力強いＰＴＡ組織を持った地域は、子どもたちの健全育成や学力向上にも大きな力を与えてくれると思います。各学校のＰＴＡの皆さんがずいぶん工夫されて、いろいろな行事に取り組まれているじゃないですか。今日訪問した学校の校長が「ＰＴＡがこういうのを買ってくれたんです」って感謝していましたよ。

清水　それはうれしいです。

飯野　私は学校を訪問すると必ず図書室に行くんですよ。市の予算は少ないのですが、新刊本はたくさんあるんです。ＰＴＡの皆さんが買ってくれているんですね。お休みの日に時間を割いてバザーを開いて、子どもたちのために資金をためてくれてるんです。涙が出ちゃいます。

教育長から子どもたちと保護者の皆さんへ

飯野　イギリスに視察に行ったときに有名な先生が使っていた言葉で「Every child is matters（すべては子どもたちのために）」という言葉があります。いつでも子どもたちを中心に考えていくことが最も大事なんだと思います。我々も保護者の皆さんも、子どもたちのために苦労して働いていると思うんですよ。その思いが共感的な理解として深まることを一番期待しています。

清水　自分だけで子育てをすることはできません。学校、地域、保護者がもっとコミュニケーションをとりながら、子どもたちが成長できるよう、ＰＴＡとしてもサポートしていきたいですね。本日はありがとうございました。

第55回高崎市PTA連合会研究大会を開催

平成28年12月10日
高崎市文化会館

大会テーマ

「子どもの声に耳を傾けてみませんか」

講演　「見方を変えて思春期の子どもの問題を見る」

思春期、この時期に子どもたちに何が起き、その中で何を感じ成長していくのか？数学が苦手で投げ出しやすい中学生にあえて難しい入試問題を解かせて、自分から質問をさせるきっかけを作ってあげる。子どもにもプライドがあり、手助けを求めるタイミングに大人が合わせる必要があります。
　子どもたちの発信する声にもっと耳を傾けてあげることで、子どもの心が見えてくるはずです。

北海道大学大学院
加藤弘通 准教授

高崎市PTA連合会研究大会を終えて

　高崎市PTA連合会研究大会では、多くの方にご参加いただきありがとうございました。
　近年、子どもたちの周りで起こる様々な悲しい出来事に「もっと大人が声を聴かなくては」という声を多く聞きますが、悲しい出来事が少なくなることはありません。
　そのような背景から、今年度の研究大会は「子どもの声に耳を傾けてみませんか」をテーマに掲げ、開催に向けて企画を考えてまいりました。
　色々な子どもの声を聴いて頂こうと、高崎市少年少女合唱団の子どもたちに、歌が好きで一つの目標に向かい日々の努力と気持ちを合わせることで生まれる感動の歌う声を聴かせてもらいました。そして、今年度も高崎市中学生リーダー研修会に参加した子どもたちに発表をしてもらいました。各中学校のリーダーが集い、問題について真剣に考え話し合い、自分たちのために作成した提言を発表してくれました。その最後には「自分たちだけでなく、親に協力をして欲しい」と子どもたちが私たち大人へ訴える声がありました。
　今回の研究大会で子どもたちの声を聴いた後に、私たち大人に聞いて欲しかったのが北海道大学、加藤弘通准教授の講演でした。

研究大会実行委員長
中澤　敏（群馬南中）

　私が以前、加藤先生のお話を聞き、このお話はどうしても皆さんに聞いて頂きたいという思いで、北海道からお越しいただきました。
　私たち大人が思春期の子どもの声をどのように聴き、理解して接していくかを学ぶことが大切であり、先生のお話を聞くことが、少しでも私たち大人のためになるのではないかと思ったからです。
　まずは家庭から、私たち大人がもっと子ども目線になって子どもの声を聴き、そしてたくさん話して、より良い親子関係を育てていただきたい。その思いを教職員も同じ方向で受け止めていただき、保護者と教職員とが協力しあえる関係をさらに深めて、気持ちを一つにすればきっと素晴らしいことが起きます。共に子どものことを学び子どもの健全育成を行う、それが保護者と教職員のPTAなのではないでしょうか。
　子どもに関わる全ての人が、お互いの声を聴き、そして話す。今の世の中、デジタルな時代になり、メール等でやり取りするために話や意見が短文になり、けんかや誤解を招き問題を起こしている現状があります。私たちは生きている人間です。アナログも時には大切ではないでしょうか。人として顔を合わせ、話し合うことの大切さを忘れてはいけないと思います。まずは私たち大人が子どもの見本となり、これからの未来をいい方向にしていこうではありませんか。
　少しでも皆様に、私たちがお伝えしたいことが伝われば幸いです。
　たくさんの方々のご協力とご尽力を賜り、深い感謝と御礼を申し上げます。

頑張ってますPTA活動！

特色あるPTAセミナーを紹介

入野小学校

驚きと感動！～親子で楽しむサイエンスマジックショー

緊張感で張り詰めた体育館に「パン！」という乾いた音。母親が持つ風船が次々に割れていきました。元群馬高専教授・小島昭さんによるサイエンスマジック。風船を割ったのは、なんとみかんの皮から絞り出した果汁です！子どもたちの頭の中は「？」でいっぱいに。身近な物を使った科学マジックの連続に、子どもたちは目を丸くしながら、親子一緒に楽しいひとときを過ごすことができました。

成人教育委員長
吉田　恵さん

親子で楽しめるセミナーに向けて

セミナーの内容や人選にあたっては、他校の企画を参考にしたり、先生方に相談したりと調整の日々。そんな中、サイエンスマジックショーのことを知ったときは「これだ！」と即決でした。小島先生はユーモアたっぷりに進めてくれ、子どもたちだけでなく保護者も、目の前で起こる科学の不思議な世界に引き込まれていきました。何より、親子一緒になって楽しんでもらえたことが、とてもうれしかったですね。

豊岡中学校

レッツエクササイズ！頭も体も心も元気に

「Let's　exercise！姿勢作りとウォーキング～正しい姿勢・歩き方は、頭も体もよくなる究極の運動」と題したセミナーを開催しました。講師は、日本で第１号のエアロビインストラクターの原田あつ子さん。線の上を姿勢よく歩いたり、参加者全員で大声を出しながらタオルを使った体操に挑戦したりと、運動能力に関係なくできる気軽にできるエクササイズで盛り上がりました。

滝川小学校

心の壁を取り払おう 車椅子バスケで学ぶ

車椅子バスケットボールチーム「群馬マジック」代表・高橋俊一郎さんが来校。子どもたちは、車椅子を自在に操る高橋さんと対戦し、一緒になってボールを追いかけました。「環境が整えば障害を持っていても同じことができます。偏見を持たず手を差し伸べることが自立の手助けになります」と子どもたちに語りかける高橋さん。心の壁を取り払うことがバリアフリーにつながることを教えてくれました。

中川小学校

プロから学ぶ ケガのない身体作り

スポーツトレーナーの吉田大祐さんを招き、親子を対象にした運動教室を開催。ケガをしにくい身体作りや運動神経をよくするトレーニング方法を学びました。子どもたちは、吉田さんの話を熱心に聞きながら、楽しそうに走り回っていました。スポーツをとおして親子のコミュニケーションも深まり、普段あまり体を動かす機会のない保護者の皆さんにも大変好評でした。

市Ｐ連ホームページ

各校のPTAセミナーをホームページで紹介

PTA活動に役立つ情報が満載

市Ｐ連のホームページ（担当：情報委員会HPグループ）では、各学校の様々なPTA活動の取り組みを紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

また、ホームページへの掲載を希望する学校も随時募集しています。問い合わせは、市Ｐ連事務局（jimukyoku@takasaki-pta-net.com）へ。

高崎市PTA連合会ホームページ

http://www.takasaki-pta-net.com/

高崎　PTA　検索

QRコード

大類小学校

体が宙を舞う！？ マジックショーに歓声

NHK教育番組でおなじみ、プロマジシャンのアンディ先生をお招きしたマジックショーを開催。弟子のモンちゃんことモンブランさんと、箱の中と外が一瞬で入れ替わる大イリュージョンからトランプやコインを使ったマジックまで、多彩なパフォーマンスを披露してくれました。驚きだけでなく笑いたっぷりのステージに、会場は子どもたちの歓声と笑い声にあふれ、大いに盛り上がりました。

城山小学校

命をつなぐ救命処置 緊急時の対応を習得

中央消防署の皆さんの指導で、心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使用方法を学ぶ救命講習会を開催。参加した保護者と先生方は、緊急時の対応の流れを確認しながら、真剣な表情で訓練に臨んでいました。子どもだけではなく、周りの大人にも、いつ何が起こるか分からないのが事故。いざというときに備え、知識を持った大人たちを地域全体で増やしていくことが大切だと感じました。

中尾中学校

ハ～ッハッハッハッ（笑）～狂言をもっと身近に

体育館に響く張りのある声！笑い声!!能楽師狂言方大藏流・大藏教義さんらによる狂言鑑賞会を開催しました。「狂言は、今でいうショートコント。歩き方が面白い、顔が面白い、何でも笑っていいからね」と大藏さん。生徒たちも次第に表情が緩み、クスクス…ゲラゲラ…！ステージ上で狂言を体験させてもらえる演出もあるなど、伝統芸能の魅力や奥深さを肌で感じる機会になりました。

教養委員長
菊地 行生さん

「子どもたちのために」が合言葉

私たちの知らない世界でも日々活躍している人がいる。子どもたちにそんな魅力ある人との出会いの場を提供したいという想いで企画しました。狂言師の大藏さんらは、国内外で活躍するなど多忙を極めています。これだけ大掛かりなセミナーは初めてで、何をどう進めるのか手探り状態でした。本番まで役員はじめ先生たちも力を結集。当日、舞台を見つめる子どもたちのキラキラした笑顔を見られて、本当に良かったです。

第49回日本PTA関東ブロック研究大会群馬大会

全て高崎市内の会場で行われます！

日時 ①分科会＝10月21日(土) 午後1時～
②全体会＝10月22日(日) 午前9時30分～

会場 ①高崎市内7カ所 ②音楽センター

分科会	テーマ	研究テーマ
1	組織・運営	魅力ある参加しやすいPTA活動を目指して！
2	環境	自然環境の美しさ、素晴らしさに気付き、自然と人間が共生できる社会の実現に向けて！
3	情報	子どもたちに収集・判断・表現力等、適切な情報処理対応能力を育むために！
4	家庭教育	親と子の笑顔のコミュニケーション！
5	健康・食育	未来を生き抜ける健康と元気を子どもたちに！
6	安心安全	安全対策、環境整備とともに、自分の安全を守れる子どもたちにするために！
7	地域連携	子どもたちをよりよく育てるための、学校・家庭・地域の連携のあり方について！

※分科会の会場や内容など詳しくは、群馬県PTA連合会ホームページで確認することができます。

平成28年度 高崎市PTA連合会本部役員

会長 清水 久美(長野郷中)
副会長 桂 健太郎(高松中)
鈴木 宏輝(佐野中)
中澤 敏(群馬南中)
磯 昭子(吉井小)
髙井 貴子(大類小)
清水あゆみ(長野小)
常任理事 清水 幸子(宮沢小)
岩井 真(片岡小)
御供 直起(長野小)
矢野 裕敏(中居小)
平田健太郎(城東小)
大澤 博史(北小)
担当校長 竹中 直樹(大類小)
渡邉 幹夫(榛名中)

理事 野口 忠一(倉渕中)
宮下 国弘(群馬南中)
関根 一秀(吉井西小)
山崎 吉郎(京ケ島小)
鷺谷 亨信(片岡小)
高田 保裕(八幡中)
岡田 修一(中尾中)
武井 和弘(西小)
監事 清水 孝(下室田小)
吉田 哲也(新町第一小)
参与 広瀬 雅美(城東小)
顧問 竹内 一普(第一中)
神宮 嘉一(中尾中)
手島 茂樹
(東京福祉大学大学院教授)

研究大会を無事に終えた本部役員で集合写真(2016年12月10日)

編集：情報委員会 広報グループ

グループ長 青木 和哉(中尾中)
副グループ長 竹内 芳徳(浜尻小)
書記 福島 秋美(入野小)
庄司 直樹(矢中小)

編集員
星 健一(南陽台小) 堀野みゆき(吉井中央中)
永井 千尋(岩鼻小) 藏石 修(大類小)
屋敷安希子(京ケ島小) 内藤 佳未(滝川小)
星野 雅代(新町第一小) 大原 修司(新町中)
狩野 大輔(城山小) 原 翔太(豊岡小)
外処 晴美(豊岡中) 新井 啓央(城東小)
岡田 孝(新高尾小) 清水 純一(塚沢小)
冨所 禎仁(東部小) 平林 真(中川小)
市川 誠二(佐野中) 堀 達也(塚沢中)
五十嵐 信(東小)

編集後記

今回号の目玉、飯野教育長との対談企画。提案してみたものの、実現するとは思いもよりませんでした。ただ、想像以上に対談が盛り上がり、手分けして対談内容を起こした文書はなんと1万6千文字！これを4分の1に集約する作業が…。締め切りまで3週間。原稿とにらめっこの年末年始（笑）。教育長の「全ては子どもたちのために」の言葉を胸に、折れそうな心を奮い立たせながら、編集作業に没頭しました。ご協力いただいた飯野教育長をはじめ、清水会長、市P連本部や事務局の皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。